

FD活動報告集

目 次

1. 学長挨拶	02
2. 教育支援総合センター長挨拶	03
3. 2018(平成30)年度FD活動表	04
4. FD活動取り込み	
(1) 第1回FD/SD研修会「初任者研修会」	05
(2) 第2回FD/SD研修会「大学教職員のためのPDF」	05
(3) 学生FD活動報告会参加感想	05
① 北翔大学 副学長 佐々木浩子	
② 北翔大学 教育文化学部 学部長 佐々木邦子	
③ 江別市 企画課 大学連携担当 大槻 宏明	
④ 札幌大学 地域共創学群 准教授 堀江 育也	
⑤ 北海道情報大学 事務局長 安倍 隆	
⑥ 札幌学院大学 情報処理課 課長 松本 賢彦	
5. 学生FD活動	07
6. 編集後記	08

1. 学長挨拶

FD 活動報告集第 11 号の刊行によせて

北翔大学・北翔大学短期大学部
学長 山谷 敬三郎

大学の教員には四つの役割があると言われていています。それは、教育、研究、学務分掌、地域貢献です。後者の二つは、それぞれの教員の経歴や専門性などから、すべての教員に同じような役割を期待することは難しいのですが、教育と研究はすべての教員にとって最も基本的な役割であり、義務でもあります。中でも、教育は大学が組織として責任をもつものであり、教員一人ひとりの教育に対する責任もまた最も基本的なものであります。しかし、教育については、他の三つの役割と比べて、その成果の可視化が困難なことから、教員の教育者としての資質向上については、どの大学にとっても課題であることは否めません。そうした中で、学生の授業評価を通して授業改善を図る FD 活動を教員の教育者としての資質向上の営みと関連させる活動が多く大学の普及しています。



本年度、本学の学生 FD の活動は、北翔アンビエントが中心となり、短期大学部子ども学科、4 年制大学の教育文化学部教育学科と芸術学科の学生が「翔タイム」と題して研修会を開催しました。また、大学としては、道内大学の FD 推進協議会のカリキュラム検討 WG に参加し、積極的 FD 活動の展開に寄与してきました。2019(平成 31)年 8 月 27 日、28 日には、本学を会場に「学生 FD サミット」を開催する予定でもあります。全国から学生が集い、それぞれの大学の取組が紹介されることになっており、学生のみならず、参加される大学の FD 活動に資する大会となることを期待しています。

さて、昨年 11 月 26 日に、中央教育審議会が「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を答申しました。その中で、各大学の教育の質の保証の具体的方策として、「学生個人の学習成果の把握」「学修時間の確保と把握」「学生による授業評価」などが示され、FD の高度化や SD の高度化などが盛り込まれています。今後具体的な施策が提言されることに注目する必要があります。もちろん、2017(平成 29)年 4 月より施行された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について」により、各大学では、3 つのポリシーに基づく大学教育の質的転換や高大接続改革等を進めていかなければなりません。

こうした中で、各大学は、自校の教育活動の内部質保証に結び付く FD/SD 活動を充実することが求められています。本報告書は、本学における FD 活動の 1 年間の成果をまとめたものです。こうした地道で、しかも継続した FD 活動が授業改善や教師の教育力の向上、ひいては学生の資質・能力の向上に貢献するものと考えています。

2. 教育支援総合センター長挨拶

2018(平成 30)年度報告集 第 11 号刊行に寄せて

北翔大学・北翔大学短期大学部
副学長・教育支援総合センター長
佐々木 浩子

本報告集は 2018(平成 30)年度に実施した FD/SD 活動をまとめたものとなっております。皆様にご高覧いただき、ご示唆を賜れば幸いです。

FD とは、皆様ご存知のとおり、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development; 以下 FD) の略語です。FD が大学改革の中で取り上げられるようになったのは、1998 (平成 10) 年 10 月の大学審議会答申「21 世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-」からです。この答申の第 2 章の 4「教員の教育内容・授業方法の改善」で、「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修 (ファカルティ・ディベロップメント) の実施に努めるものとする旨を大学設置基準において明確にすることが必要である。なお、個々の授業の質の向上を図るに当たっては、シラバスの充実等の取組が重要である。」と述べられており、ここから FD の努力義務化が始まりました。



また、2005(平成 17)年 1 月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の用語解説では、FD について「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」と記載されています。さらに、この中ではスタッフ・ディベロップメント (Staff Development; 以下 SD) についても記載されており、「事務職員や技術職員など教職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。」とされています。

その後、2007(平成 19)年 7 月には FD の義務化を含む大学設置基準の一部を改正する省令が公布され、翌 2008(平成 20)年 4 月より施行されることとなりました。つまり、大学改革としての FD は、およそ 10 年間の準備期間を経て義務化され、さらに 10 年を経過して今に至っていると言えます。

こうした経緯の中で、本学の FD/SD 活動は、学長のリーダーシップの下で計画、実行され、年度ごとの評価と次年度への改善という、いわゆる PDCA サイクルによって推進されてきました。2017(平成 29)年には SD が義務化され、2018(平成 30)年 11 月には中央教育審議会答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」が公表され、大学が行う「教育の質の保証」の具体的な方策として、FD 及び SD の高度化が示されています。今後、本学の FD/SD 活動もこのような大学改革の流れの中で、教職員が一層組織的に取り組んでいくことが期待されます。

報告集の刊行にあたり、本学の FD/SD 活動を振り返るとともに、関係教職員及び学生の皆様に感謝を申し上げます。

3. 2018(平成30)年度FD活動表

日付	各委員会	学内活動(研修会他)	学外活動(研修会他)
4月2日(月)	第1回FD支援委員会		
4月5日(木)		翔タイム!(北翔アンビエント):芸術学科1年	
4月24日(火)	第2回FD支援委員会		
4月19日(木)		翔タイム!(北翔アンビエント):こども学科1年	
4月27日(金)		翔タイム!(北翔アンビエント):教育学科1年	
5月7日~6月8日		前学期授業コンサルタント募集	
5月7日~6月15日		前学期授業コンサルテーション募集	
5月23日(水)		第1回FD/SD研修会「初任者研修会」	
5月26日(土)			“つばさ”FD協議会(山形大)
5月29日(火)	第3回FD支援委員会		
6月26日(火)	第4回FD支援委員会		
6月28日(木)		趣味トーク!!! (北翔アンビエント)	
6月中旬~7月下旬		前学期授業改善アンケート調査	
7月31日(火)	第5回FD支援委員会		
7月23日~8月31日		授業コンサルタント募集	
8月1日~11月16日		後学期授業コンサルテーション募集	
8月28日(火),29日(水)			学生FDサミット2018夏 (京都光華大学/京都光華大学短期大学部)
9月7日(金)			北海道地区FD・SD協議会総会(北海道大学)延期
9月7日(金)~8日(土)			北海道FD・SDフォーラム 7日(北海道大学)・8日(小樽商科大学)中止
9月10日(月)			“つばさ”学生FD会議(札幌学院大学)延期
9月25日(火)	第6回FD支援委員会		
10月30日(火)	第7回FD支援委員会		
11月9日(金)		翔タイム!(北翔アンビエント)「愛とはなにか」	
11月19日(月)		第2回FD/SD研修会「教職員のためのPDF」	
11月27日(火)	第8回FD支援委員会		
12月12日(水)		北翔アンビエント活動報告会(学生FD)	
12月15日(土)			“つばさ”学生FD会議(札幌学院大学)
12月18日(火)	第9回FD支援委員会		
1月29日(火)	第10回FD支援委員会		
12月中旬~1月下旬		後学期授業改善アンケート調査	
2月16日(土)			“つばさ”FD協議会(山形大学)
2月22日(金)			北海道地区FD・SD協議会総会(北海道大学)
2月26日(火)	第11回FD支援委員会		
3月21日(木),22日(金)			学生FDサミット2019春(島根県立大学)
3月12日(火)	第12回FD支援委員会		
3月下旬		FD活動報告集第11号発行予定/学生FD活動報告誌Vol7発行予定	

* 日程は,予定のため変更する場合があります。また記載以外の研修会等を実施,参加する場合があります。

4. FD活動取り込み

(1) 第1回 FD/SD 研修会「初任者研修会」

短期大学部 こども学科 荒川 巖

6月6日(水)、新任教員を対象にFD/SD研修会があり、参加した。内容は以下の3点である。

教育支援総合センター長の佐々木先生より、本学の建学の精神と教育理念、目指す大学像、高等教育制度、教育の質保証と認証評価、大学の「5つのフレーム」、短大の「集中した学び」などのお話をいただいた。大学教員として知っておくべき原点から実践的なことまで幅広い内容に及んだ。

次に学習支援オフィス長の西出先生より、本学の教育課程と授業、そして成績評価や指導教員の処理事項についての説明があった。大学の仕組みを知る大切な時間であった。

最後にFD支援オフィス長の松澤先生より、FDおよび支援オフィスとサポート内容についての説明があった。続いてFD実施委員会の活動、「つばさプロジェクト」への参加や学生の「北翔アンビエント」の活動、そして授業アンケートについての説明があった。

FD活動では、大学の「今」と「これから」を知ることにはじまり、教育能力向上のために積極的な取り組みが求められている。初任者として気持ちの引き締まる時間となった。



(2) 第2回 FD/SD 研修会「大学教職員のためのPDF」

生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 井出 幸二郎

大学教職員のためのPDFの利用方法の研修会が2018(平成30)年11月19日に開催された。アドビシステムズの富崎太一氏が研修会の講師を務められた。研修会の内容は、基本的な使用方法から、PDFのセキュリティとその対策、業務や研究の応用例であった。今回紹介された事例は授業で用いる資料や研究の広報にも使用したいと感じるものであったが、ワードで文章を作成しそれをPDF化することや論文等の資料の閲覧する程度のPDFの初心者にとって、自らがPDFの作成をするのはやや高いハードルであるとも感じた。



(3) 学生FD活動報告会参加感想

副学長 佐々木浩子

北翔アンビエントによる2018(平成30)年度活動報告会に参加させていただきました。

どれも印象に残る内容で、どの発表ももっと長い時間で多くの内容を発表したかったのではないかと思います。

春と夏の学生FDサミットの報告では、ポスターセッションで表彰を受けるなど、北翔アンビエントの活動の質の高さや、他大学の学生との交流による参加した学生の視野の広がりを感じることができました。趣味トークや翔タイムでは、学生FD活動を通じた自己理解や他者理解、また学科の先生の協力を得て、活動の場を拡げつつ仲間も増やしていくという、大学生にとって大切な学びの場になっていることを感じることができました。

頼もしい4年生は卒業してしまいますが、北翔アンビエントのさらなる活躍に期待しています。

最後に、遅い時間帯にもかかわらず、外部より参加いただきました皆様には感謝申し上げます。

教育文化学部 学部長 佐々木 邦子

12月12日に開催された学生の運営による北翔アンビエントの活動報告会に参加をした。芸術学科2年女子のよく通る声での進行である。そこには、学生FDを担当している他大学の教職員も複数名参加していた。

メンバーが各々述べた感想を聞くと、先輩から脈々と引き継いできた活動と、それを学内だけに留めず全国的な学生FDサミットへの参加など、積極的に拡張しながら継続していることが看取された。活動に対する感想として、学生が様々な点で意義があったと捉えている実感が何よりも素晴らしい。

2019年度、全国学生FDサミットは本学で実施される。このことから北翔アンビエントが他大学を牽引する存在に近づきつつあるように窺え、未来に向かって吹く新しい風を感じるのである。

江別市役所企画課（大学連携担当） 大槻 宏明

このたびは、2018(平成30)年度活動報告会へ参加させて頂きお礼申し上げます。

活動報告では、全国の大学生との交流（学生FDサミット）や学内イベント開催（趣味トーク!!!・翔タイム）などの報告が発表され、どの発表からも「学生個人が主体性を持った活動を展開することが成長につながる」という一貫した理念を感じました。

いつも驚かされるのは、学生の皆さんがそれぞれの活動を行う前に、目的やターゲット、活動の効果について事前に設定し、かつ、個人レベルにも落とし込んでいるということです。これは日々、先進的な企業の経営者たちが主体的に取り組んでいるアプローチと基本が重なるものと思います。

学生の皆様が、大学や地域、様々な人と人とのつながりといった資源を活用しながら、自分自身をどんな人間に成長させ、また、自分の通う大学をどんな大学にしていきたいか、じっくりと考えて活動頂くことは、より良い地域づくりにもつながっていくものと気づかされます。

今後も北翔アンビエントの活動が益々活発になりますこと、また今夏、貴学で開催される学生FDサミットが成功されますよう、ご期待申し上げます。



札幌大学 地域共創学群 准教授 堀江 育也

毎年、学外の関係者も呼び、活動報告会を実施していることを高く評価したい。やりっぱなしにせず、活動を振り返り、後輩たちが受け継ぎ、次年度の活動の大きな動機付けになっていると強く感じた。また、やらされている感がなく、主体性を感じ、さらに明るく、楽しみながら、取り組んでいる様子が非常に良いと感じた。学生FDとFD担当教員、職員との信頼関係も、いつもながらよいバランスが保たれていると思う。次年度、貴大学で開催予定の学生FDサミットの開催に向け、より一層、団結力を増し、今後の活動が楽しみである。

今後は、その勢いを止まらせることなく、本学を含め、近隣の他大学の学生FDとの連携を強化し、各大学の活動の刺激につながることを期待したい。

うちの、学生FDも、ちょっと、ごたごたがありました。新しい代表に代わり新たなスタートを切り始めました。

まだ、メンバーが少なく、今後が、心配ですが・・・以前、話していた、本学のセミナーハウスやバーベキューコーナーを活用して勉強会、交流会などできればと思っております。よろしくお願ひします。

北海道情報大学 事務局長 安倍 隆

学生の皆さんが、楽しく、誇らしげに活動に参加していること、そして各学年で多くのメンバーが参加していることが印象的でした。

本学では、学生FD活動が盛り上がった時期もありますが、その活動を広げたり継続したりすることが難しく、現在は休止状態です。北翔アンビエントの皆さんの成功事例を聞くことができ、大学側の支援の必要性(担当教職員、予算、位置づけなど)についても改めて考えるきっかけとなりました。

北翔アンビエントは、楽しく、自らが成長できる場となっている素晴らしい活動だと思います。これからも笑顔で活動を続けていってください。

そして、いずれは本学ともコラボさせてください。

ありがとうございました。

札幌学院大学 情報処理課 課長 松本 賢彦

北翔アンビエントの活動報告会に参加させていただきました。明るく澁らつとした彼らの発表を聴いて元気をもらいました。

「翔タイム」は、大学と学生が協働して初年次教育に取り組む好例ではないでしょうか。大学教育に学生の意見を組織的に取り込むよう求められている昨今、アンビエントの役割はこれから益々重要になりますね。

報告会の帰りがけ、アンビエントの学生が「お互いにもっと交流しましょうよ！」

と声をかけてくれました。うれしかったです。お隣同士の大学ですから、これからは学生間に留まらず教職員も含めた交流の幅を広げたいですね。

来年度は北翔大学で全国FDサミットが開催されるとか。我々も大いに協力させていただきます。



5. 学生FD活動

・翔タイム w

4月 5日(木) 芸術学科 1年

4月 19日(木) こども学科(短期大学部) 1年

4月 27日(金) 教育学科 1年

11月 9日(金) 全学部全学科(他大学含む)

・趣味トーク 会場：北翔大学 図書館

・平成30年度学生FD活動報告会(北翔アンビエント)

・学生FDサミット2018夏 in 京都光華女子大学

・学生FDサミット2019春 in 島根県立大学

・江別コンペティション 会場：札幌学院大学

・学生FD報告誌

テーマ「大学生生活の不安」

テーマ「理想の先生像」

テーマ「こんな先生は嫌だ！」

テーマ「愛とは何か？」

6月28日(木)

12月12日(水)

8月28日(火)・29日(水)

3月21日(木)・22日(金)

2月13日(水)

3月下旬発行予定

6. 編集後記

FD 支援委員会 委員長
教育文化学部 芸術学科 松澤 衛

北翔大学・北翔大学短期大学部の FD 活動報告を、今年度も「活動報告集」として発行いたしました。本学が FD 活動に取り組み始めて 15 年が経過し、私が FD 支援委員会の委員長になってから丸 8 年が経ちました。

今年は、改めて FD とは何か？授業改善アンケート、研修会これを行えば、FD 活動か？問題意識を共有できる仲間をどのように増やし、展開すれば、大学の教育、大学全体が良くなるのか。改めて考えた 1 年でした。

来年度は、本学で学生 FD サミットを行う予定になり、本年度後半より学生と学生 FD サミットに向けて準備を進めています。

来年度は、本年度より充実した FD 活動を行っていきたいと考えています。

投稿くださった本学、他大学の教員、職員、江別市の職員の皆様に感謝申し上げますと共に、報告集をご覧いただき、学びを共有し合い、更により良い大学作りの為に活用ください。

FD 支援委員会

委員長：教育文化学部	芸術学科	松澤 衛
副委員長：教育支援総合センター	FD 支援オフィス	千葉 道博
委員：生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	井出幸二郎
生涯スポーツ学部	健康福祉学科	尾形 良子
教育文化学部	教育学科	中川 洋一
教育文化学部	心理カウンセリング学科	橋本菊次郎
短期大学部	こども学科	荒川 巖
事務担当：教育支援総合センター	FD 支援オフィス	田村 友一

発行日：2019(平成31)年3月末日
編集・発行：北翔大学・北翔大学短期大学部
FD支援委員会／FD支援オフィス
〒069-8511 北海道江別市文京台23番地
TEL：011-386-8011(代)
FAX：011-387-6260
<http://www.hokusho-u.ac.jp>
fdoffice@hokusho-u.ac.jp

表紙写真撮影：教育文化学部 芸術学科 松澤 衛

